



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 494号

2016. 5. 09

発行責任者

岸田 義典

目次

2016

- ガーナの最新情報
国際農林水産業研究センター 小田正人氏.....2
- 国別輸出入 (2016年2月)..... 11
- WORLD NEWS..... 16
- EVENTS CALENDER..... 17

Vol. 4

ガーナの最新情勢

国際農林水産業研究センター主任研究員
小田正人氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 494 回海外農業機械事情報告会を平成 28 年 3 月 25 日（金）に開催した。講師は国際農林水産業研究センターの小田正人氏。同氏は、今年 2 月までガーナのノーザン州で稲作研究プロジェクトに携わってきた。ガーナでは米需要が拡大しているが、国内自給は半分ほどにとどまり、輸入が財政への大きな負担となることから、米の増産が急務とされている。ガーナの最新情勢を写真と資料をもとに報告した。要旨は以下の通りである。

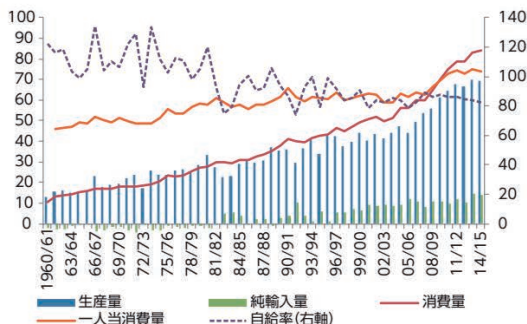
2003 年にタイに 4 年駐在し、野菜の節水栽培の研究をしました。その後、ラオスやインドネシアの稲作、ブラジルの野菜作等の研究を行ってきました。3 年前にガーナの稲作プロジェクトのサブリーダーを務め、その時に知り得た情報を話題提供としてお話しさせていただきます。皆さんは、機械に関心がある方々と思いますが、私の専門は作物栽培です。しかし、現地の様子から機械関係のヒントになることが出てくるかと思っています。

コメ需要の増大と生産の停滞

昨今、商品価格が下がっているなかで、コメ価格だけが値段の上昇を続けているという状況が世界的に見うけられます。それと深く結びついているのが

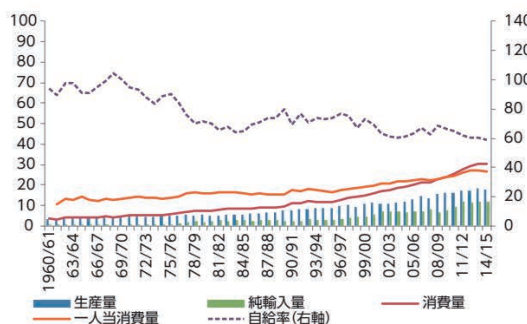
アフリカのコメ需要で、需要が非常に伸びています（図 1）。需要に対して生産が追いついていません。1962～2015 年のトウモロコシは単収が 1.1 から 1.9 t/ha と倍増しており、面積も 117 万から 3,280 万 ha と 3 倍に伸びています。需要と供給がバランスよく保たれています。イネは単収が 0.9 から 1.3t/ha とそれほど伸びはありません。面積は 260 万から 970 万 ha と伸びていますが、さらに需要増が大きいために、赤線と棒グラフの差が大きくなってきています。

アフリカ中央部にあるサハラ砂漠から南側に位置する地域をサブサハラといいます。特に、このサブサハラで近年コメの需要がドンドン伸びています。現地では、イモやトウモロコシを練り物にしたものを食べる食文化があります。ただし、これを作るのに大変時間がかかってしまう。一方で都市化が進ん



第 1 図 アフリカにおけるトウモロコシの需給
(単位：100万トン、kg/年、%)

資料：USDA(PSD Online)およびFAOSTATより筆者作成。
注(1) 2014/15年は推定値。
(2) 純輸入のマイナス値 (=純輸出)は省略したが、1960年代から1970年代には数十万トン～数百万トンの純輸出があった。



第 2 図 アフリカにおけるコメの需給
(単位：100万トン、kg/年、%)

資料：第 1 図と同じ。
注(1) 2014/15年は推定値。
(2) 純輸入のマイナス値 (=純輸出)は省略したが、1968/69年には18.3万トン、1969/70年には1.7万トンの純輸出がある。

図1 アフリカで増大する穀物需要 (草野拓司 Primaff Review No.64 2015.3)